

令和6年度 桃陽総合支援学校 前期学校評価アンケート

「学習について」の項目は、全体を通して概ね肯定的評価が高くなっている。しかし、④「自主学習が習慣づく学習の行う」の評価が低くなったり、課題であると考える。自主学習の習慣を付けるために、本校放課後に自主学習の時間を設定をしている。

日々、子どもに寄り添った教育活動を心掛けており、一人一人の子どもたちのことを大切にしている。子どもたちの相談に乗っている姿を見ることができる。

⑨【子どもが社会のルールを守り、生活のマナーを身に付ける評価が高くなっている。今後も社会のルールや生活のマナー生活を送ることができるよう保護者と協力をしあっていきたい】PTA主催の「お茶ベリサロン」は本校保護者間の貴重な情報交換がなっている。そこでは、様々な悩みや相談といったことが共有され、今後もこの機会は大切にしていきたい。

「の項目を守って考える。未有の場とされている。」

今年度、学校目標が「まるごとの『自分』を好きになれる子どもの育成」になった。(1)「自分自身のことは好きである」の評価はを見ていると、5と高くない数字が出ている。自分自身のことが好きになれる子どもの声が今後のこととも踏まえて大切である。

小集団で制約も多い入院の中での学校生活であるが、(1)「学校生活楽しい」の評価は88%と高い。今後も学校生活が楽しいと思えるよう組を継続していきたい。

「普通や当たり前がなかなか体験できない入院中の子どもにとって本校・分教室はとても大切な場所だと思います。」「大人みんなで協力して、この大切な場所をよりよくして子どもたちの根っこ育てる栄養になればいいなと思います。」との回答をいただいた。課題としては挨拶が課題としてあがってきており、挨拶の大しさを伝え、挨拶ができる子に育てていきたい。

【全体を通して】

- ・児童生徒が学校は楽しいと思えるような学校作りを行うことが大事である。そのためには教職員は一人一人の子どもたちのことを大切にしなければいけない。また、授業を通して、「できる喜び」「わかる喜び」を感じるように一人一人に応じた授業作りに励んで行
必要がある。
- ・児童生徒の自主学習の習慣化に向けての定着が課題と考える。放課後学習(本校)など自主学習の定着に向けての取組を行ってはいるが、なかなか児童生徒の自主学習の習慣化の定着には繋がっていないのが現状である。この現状ならびにアンケート結果
からみてもこの自主通学の習慣化の定着が課題であると考える。
- ・子どもたちは友だとのかかわりを楽しんでいる。友だとのかかわりを通して、子どもたちは大きく成長していっている。今後もこのような機会を大切にしていきたい。

確かな学力の育成:
本校・分教室ともICT機器を用
ムーズに行なうことができている
教職員は、よりわかる授業作り